

報道関係者各位

2021年5月2日(日)

世界22ヶ国より50名の作家の作品240点余が集結

主催 千代田区、アーツ千代田 3331

ポコラート世界展 「偶然と、必然と、」

——— 障害のある人、ない人、アーティストの生の表現を世界に解き放つ ———

会期 2021年7月16日(金) - 9月5日(日)

会場 アーツ千代田 3331 1階 メインギャラリー

特設サイト URL <https://pocorart.3331.jp/world2021/>



この度、千代田区とアーツ千代田 3331はポコラート事業10周年を記念し、世界22ヶ国の作家50名による展覧会、ポコラート世界展「偶然と、必然と、」—障害のある人、ない人、アーティストの生の表現を世界に解き放つ—を開催いたします。

独自のリサーチ、キュレーションの元に展示される創作物は240点余に及び、自己の内面や身近な事象から、作者を取り巻く世界の成り立ち、過去の記憶や空想の世界など、6つのテーマで構成されています。それぞれの創作は世界の成り立ちを数式で表現したものや、自身の身体を利用して様々な人物に扮し、それらを撮影したポートレートなど、作家の内面から湧き上がる衝動、創作のエネルギーが形になったものです。国籍、年齢や性別、障害の有無、美術の枠組みさえも飛び越える創作の数々をぜひ本展でご覧ください。

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局（株式会社スキュー内）
〒107-0062 担当：大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel：03-6450-5457 Fax：03-5539-4255
Mail：3331@skewinc.co.jp

ポコラート | POCORART とは？

Place of "Core+Relation ART"の略であり「障害の有無に関わらず人々が出会い、相互に影響し合う場」またその「場」を作っていく行為を示す、アーツ千代田 3331独自の概念です。ポコラートは、アーツ千代田3331の開館(2010年)と同時に始まり、障害のある人、ない人、アーティストが同じ地平で表現を高め合う場を創造すべく、公募や展覧会、ワークショップ、トークイベント等に10年にわたって取り組んできました。

本展の見どころ

世界22ヶ国より50名の作家の作品240点余が集結

本展では、世界22ヶ国から「美術」という枠にとどまらない創作物を集め、アーツ千代田 3331に展示します。多様な地域性や文化を反映しながらも、作者の内なるエネルギーが形となって現れた唯一無二の表現を一堂にご覧いただける機会です。

〔出展国〕

アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、イラン
インドネシア、オーストラリア、カナダ、キューバ
スイス、スウェーデン、チェコ、中国、ドイツ
ナミビア、日本、ニュージーランド、ブラジル
フランス、ベナン、ベルギー、ポーランド、モロッコ

海外作家28名の創作は日本初公開



イマニュエル・マペウ 《無題》 2015年
木材、塗料 ©collection abcd/Bruno Decharme

本展の展示作品は、芸術文化人類学を専門とするキュレーターが約1年を費やして世界23都市で独自にリサーチし、キュレーションを行いました。海外から出展する35名の作家のうち、28名の創作が日本初公開となり、日本で近年謳われている「アール・ブリュット」のイメージを覆す強烈なものばかりです。

中でもキューバ出身の元数学者であり、ダンボールに独自の数式やキューバ革命の英雄などを描くカルロス・ハビエル・ガルシア・ウエルゴや、ナミビアで観光客向けの土産物として鳥のような様相をもつ「飛行機」を制作するイマニュエル・マペウの創作は文化施設での公開が世界初となります。

あらゆる既存の価値観から解き放たれた表現

ご紹介する創作の中には、アール・ブリュット(*)やアウトサイダー・アート(*)といったカテゴリーに位置付けられるものもあります。本展ではそれらのカテゴリーに属する創作だけではなく、常識、偏見、社会的判断といったあらゆる既存の価値観から解き放たれた、時に常軌を逸した「生の表現」と出会うことができます。

* アール・ブリュット (フランス)

フランス人の画家、ジャン・デュビュッフェが考えた造語。「ブリュット」はフランス語で「加工していない」「ありのままの」という意味で芸術でいうと「アートに加工を施していない」というニュアンスになります。精神病患者、受刑者、子ども、民俗芸術や交霊術によるアフリカやオセアニアの人たちの作品など、専門的な美術教育を受けない人びとによる表現を指します。

* アウトサイダー・アート (イギリス)

1972年、「アール・ブリュット」をイギリスの美術批評家、ロジャー・カーディナルが訳した。またこれ以前には、アメリカの社会学者であるハワード・S.ベッカーがアーティストやミュージシャンの、社会から逸脱した行動を論じた「アウトサイダーズ」(1963年)という論文を発表しており、いわゆる美術界の主流には影響されずに独自に生み出される表現を指して使われます。



ミスレイディス・フランシスカ・カスティージョ・ベドロ
《無題》 2015年
アクリル絵の具、紙 71×55cm
©Galerie Christian Berst

関連イベント情報は2021年6月下旬以降配信の第2弾
プレスリリースおよび公式ウェブサイトに掲載予定

開催概要

展覧会名	ポコラート世界展 「偶然と、必然と、」 — 障害のある人、ない人、アーティストの生の表現を世界に解き放つ —
会 期	2021年7月16日(金) — 9月5日(日) 会期中無休
開場時間	11:00~18:00 入場は17:30まで
会 場	アーツ千代田 3331 1階 メインギャラリー 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 旧練成中学校
料 金	800円 65歳以上は500円。中学生以下・千代田区民は身分証のご提示で無料。 障害者手帳をお持ちの方とその付添の方1名は無料。
主 催	千代田区、アーツ千代田 3331
協 力	スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、オーストリア文化フォーラム東京
特別協賛	中外製薬株式会社
協 賛	三菱地所株式会社
後 援	アメリカ大使館、イタリア文化会館、(一財)日伯経済文化協会(ANBEC)、一般社団法人千代田区観光協会、カナダ大使館、在日スイス大使館、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、スウェーデン大使館、チェコセンター東京、チェコ共和国大使館、駐日イタリア大使館、駐日キューバ共和国大使館、ドイツ連邦共和国大使館、ニュージーランド大使館、ブラジル大使館、ブリティッシュ・カウンシル、ベルギー王国 フランス語共同体政府 国際交流振興庁(WBI)、ベルギー大使館、ポーランド広報文化センター、モロッコ王国大使館

特設サイトURL

<https://pocorart.3331.jp/world2021/>

【報道関係者問い合わせ先】

 ポコラート世界展PR事務局 (株式会社スキュー内)
 〒107-0062 担当: 大迫、中田
 東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
 Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
 Mail: 3331@skewinc.co.jp

新型コロナウイルス感染症等の影響により、予告なく予定及び展示内容を変更することがあります。ご来館の前に、ホームページ等でご確認ください。
また、ご来館に際し、下記対策等にご協力ください。

- ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒、スタッフによる検温、入館票のご記入をお願いします。
- 混雑状況によっては、一時的に入場制限をさせて頂く場合があります。

ステイトメント

「わたし」から宇宙へ、宇宙から「わたし」へ

作り手は、日々の生活の時間や空間の中で、絵を描いたり、彫刻を作ったり、切ったり、貼ったり様々な創作活動を行う。人は「わたし」として生まれ、「わたし」の人生を送る中で、「わたし」をとりまく身近な環境、社会、他者との出会いの中で思いをめぐらせ、ときにはハプニングに遭い、生きていく。

科学は、我々をとりまく世界や我々自身の存在の謎を解明しようと探求してきた。哲学や芸術もまたそうである。

ギリシャの哲学者、デモクリトスの言葉に、「宇宙に存在する全てのものは、偶然と必然の産物だ」とある。デモクリトスのいうように、我々を含めて地球上の、いや、宇宙のすべての存在が偶然と必然の産物である。

作り手たちの作品は身近な小さな世界を扱っているが、それは大きな世界に通じている。大きな宇宙はその小さな宇宙を内包するものである。

「わたし」自身が小さなミクロの宇宙の集合体であり、その「わたし」も無限に広がる宇宙の一部である。これらが、「美術」と呼べるものなのかはわからない。または、「美術」という範囲に収まりきれないかもしれない。

確かなことは、我々の存在の謎の解明への探求がここにあるということだ。

本展キュレーター
嘉納 礼奈

キュレーターによる図録掲載テキストより

すべての「生涯者」の夢と狂気に捧げる

日本では、福祉の分野が主導し、障害のある人々による作品を展示する展覧会が数多く開催されている。主催側と鑑賞する側の両者にとって、作者たちの「障害のある」素性に焦点が当てられ、この「アート」の一義的な要素となる。しかし、文化の立場から考えれば、創作者たちの持つ力を、「ごく一部」の機能の障害にフォーカスして語ることはできない。同展では、作品の創造性に注目し、作品を選んで展示している。日本での意味合いで言及するなら、障害のある人もいれば、ない人もいる。これらの創造性に敬意を表して、本展では、作者たちのことを敢えて「生涯者」と呼びたい。

作品が生活の中の思いや出来事と完全に切り離すことができないことには違いない。作品は、作者の生涯の具体性として、または、作者自身の分身であるかのように、道具や素材の力を借りて形になって現れる。作者は、限られた道具と材料の可能性の中で、作品に、自己の一片を語らせる。

嘉納礼奈「偶然と、必然と、個々の迷想～生涯者に捧ぐ～」
本展図録掲載テキストより抜粋

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局（株式会社スキュー内）
〒107-0062 担当：大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
Mail: 3331@skewinc.co.jp

展覧会の6つのテーマ・出展作家 -1

作者の心という内なるものから、外側へ向かう行為と身体、それを取り巻く環境、その成り立ち、そして記憶の彼方へと広がっていく作品世界を「宇宙」になぞらえ、その壮大な物語を6つのテーマで感じていただける構成となっています。

1. 宇宙のころろ [内なる人格と仮面]

人は、「わたし」に出会う時、「わたし」の姿をどのように感じるのだろうか。「わたし」のころろが捉えた「わたし」の表現の数々。

[出展作家]

マリアン・ヘネル (ポーランド)
 ヨーゼフ・ホーファー (オーストリア)
 桑原 敏郎 (日本)
 トマシュ・マフチンスキ (ポーランド)
 小幡 正雄 (日本)
 ハラルト・シュトファース (ドイツ)
 レオポルト・シュトロブル (オーストリア)
 与那覇 俊 (日本)



ヨーゼフ・ホーファー《無題》2009年
鉛筆、色鉛筆、紙 44×60cm

鏡に映った自分の裸体を描いた創作や、自ら様々な人物に扮して撮影したポートレートなど、作者の感情、欲望といった内面世界が創作に映し出されています。

2. 宇宙のうごき [行為からかたちへ]

貼る、重ねる、刺す、巻く、集める、書く。日常の中で出会った行為が、ある瞬間に一線を越える。創造の原初的な瞬間を迎える。

[出展作家]

ローラ・デルヴォー (ベルギー)
 金崎 将司 (日本)
 カルロ・ケシシアン (イギリス)
 エズキエル・メスー (ベナン)
 マルク・モレ (スイス)
 アンドレ・ロビヤール (フランス)
 澤田 真一 (日本)
 武田 拓 (日本)



武田 拓《はし》2010年
割り箸 230×80×100cm、他7点
photo: MIYAJIMA Kei

割り箸を箱にさし続けることによって出来上がった大きな立体物、鮮やかな糸を巻きつけて蛹のようになった人形など、日常の行為や習慣は蓄積され、思いも寄らない造形が現れます。

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局 (株式会社スキュー内)
 〒107-0062 担当: 大迫、中田
 東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
 Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
 Mail: 3331@skewinc.co.jp

展覧会の6つのテーマ・出展作家 -2

3.宇宙のからだ [身体生命の謎]

人間や動植物をはじめとする地球上の生き物、身の回りのものはどのようにできているのか。「わたし」の数だけ存在する謎の解明。

[出展作家]

クルツィオ・ディ・ジョヴァンニ(イタリア)
ヘルムート・フラディッシュ(オーストリア)
ユリア・クラウゼ=ハーダー(ドイツ)
中道 一輝(日本)
ミスレイディス・フランシスカ・カスティージョ・ペドロソ(キューバ)
ルボシュ・プルニー(チェコ)
舛次 崇(日本)
チャールズ・ステッフエン(アメリカ合衆国)



ユリア・クラウゼ=ハーダー 《Juravenator》 2013年
ミクストメディア 51×40×104cm
Foto: Atelier Goldstein

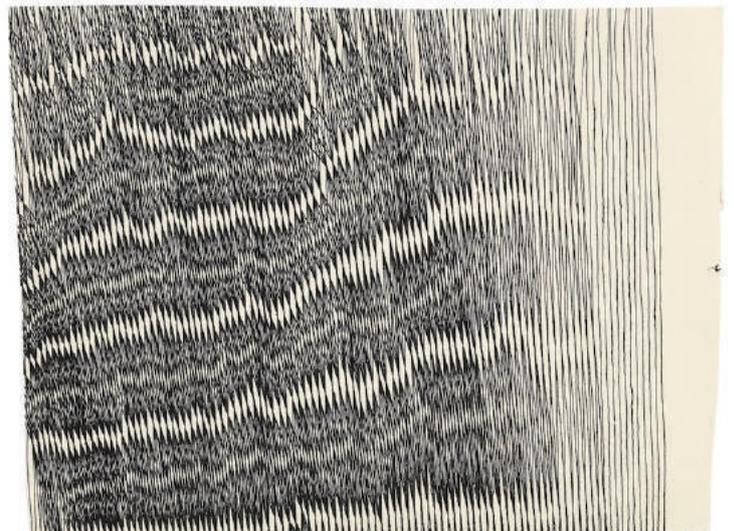
日用品を使用して忠実に再現された恐竜や、鮮やかな色彩と簡潔な線で描かれた筋骨隆々の男性像など、生き物や事物に対する作者の強い興味や探究心を通して対象は再構成され、独自の形態が生まれます。

4.宇宙の種類 [取り巻く環境からかたちへ]

ある時代や社会、あるいは生活が持っている文化的な慣習、または環境と密接なつながりを持つ創作の数々。

[出展作家]

モハメド・ババフム(モロッコ)
ユリウス・ボッケルト(ドイツ)
平野 智之(日本)
ダウード・クーチャキ(イラン)
黒田 勝利(日本)
イマニュエル・マペウ(ナミビア)
エルク・タングテン(ベルギー)
ニ・ニョーマン・タンジュン(インドネシア)
ヴェイオ(ブラジル)
吉原 長次郎(日本)



ユリウス・ボッケルト 《無題》 2013年
インク、紙 19.5×25.5cm
©collection abcd/Bruno Decharme

聞こえる音の波動を可視化した模様のような絵画や、空軍基地の近くで、観光客向けのみやげ物として作られた鳥のような飛行機など、作者は彼らの周囲の環境を取り込みながら創作を行っています。

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局(株式会社スキュー内)
〒107-0062 担当: 大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
Mail: 3331@skewinc.co.jp

展覧会の6つのテーマ・出展作家 - 3

5. 宇宙の成り立ち [共振するいのち]

わたしたちを取り巻く世界はどのように成り立っているのだろうか。世界に関する情報とそれを処理する記号の空間が創作となる。

[出展作家]

コスティア・ポトキン (ベルギー)

ジョン・デブリン (カナダ)

かく ほう い

郭 鳳 怡 (中国)

古久保 憲満 (日本)

ヨックム・ノードストロム (スウェーデン)

フランツ・フォン・ザールフェルト (ドイツ)

マーティン・トンプソン (ニュージーランド)

ジョージ・ワイドナー (アメリカ合衆国)

エンタン・ウィハルソ (インドネシア)



エンタン・ウィハルソ 《Recalling Home 「故郷(ふるさと)の追憶」》2018年
アルミニウム、自動車用塗料 244.5×339×15cm
© Entang Wiharso, courtesy Mizuma Gallery

紛争や貧困といった社会情勢によって変化した故郷の人々の内的世界を表したレリーフや、記号や数字のシステムで世界を結びつけようとする絵画など、作者は彼らが属する世界の成り立ちをそれぞれの視点で捉え、創作を通して関わろうとしています。

6. 宇宙の記憶 [時空を超えた記憶への旅]

「わたし」の人生に起こったこと、太古の昔に地球上で起こった出来事、人類の歴史上の事実が時空を超えて混じり合う。

[出展作家]

カルロス・ハビエル・ガルシア・ウエルゴ (キューバ)

ジミー・ツトム・ミリキタニ (アメリカ合衆国)

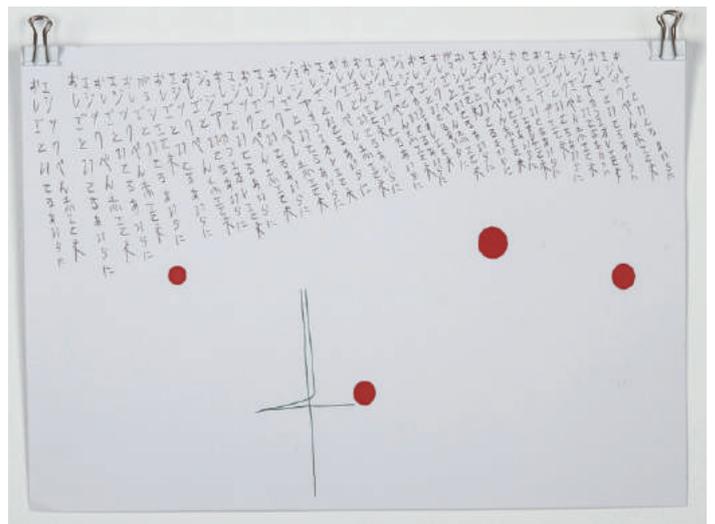
杉浦 篤 (日本)

鶴川 弘二 (日本)

上田 海登 (日本)

ワンダ・ヴィエーラ=シュミット (ドイツ)

メルヴィン・ウェイ (アメリカ合衆国)



鶴川 弘二 《無題》2013-2019年
油性マジック、ボールペン、水性マーカー、画用紙 39.2 × 27.1cm
photo: MIYAJIMA Kei

母親からかけられた言葉を図形とともに紙にしたためのドローイングや作者の人生の出来事や歴史上の英雄、聖書の登場人物などを数式とともに描いた絵画など、作者の中の記憶は時に空想の出来事や史実と交錯し、現実世界を超越した表現を生み出します。

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局 (株式会社スキュー内)
〒107-0062 担当: 大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
Mail: 3331@skewinc.co.jp

注目作家

本展で紹介する50名の作家は、一人一人が創作に至るまで偶然あるいは必然ともいふべき出来事に遭遇し、彼らの人生を歩んできました。作者を表現に駆り立てたものは一体何なのか。背景にある唯一無二のエピソードに展示作品と合わせて向き合うことで、作品世界により深く入り込む手がかりとなります。

注目作家 1 様々な人物に扮してポートレートを撮影する トマシュ・マフチンスキ



トマシュ・マフチンスキ 《無題》
写真、ゼラチン・シルバー・プリント、写真アルバム 42×31×7cm
Courtesy of Tomasz Machciński Foundation

ポーランドのトマシュ・マフチンスキは50年以上に渡り、実在、架空、有名、無名問わず、ありとあらゆる人物に扮し、ポートレートを撮影し続けてきました。撮影時はカツラの着用や特殊メイクなどは一切行わず、髪の毛やヒゲを実際に伸ばしたり切ったりと、自らの身体によって全てを表現していることが特徴です。また病気や老化など、実際に起こる身体的な変化も表現の一部として取り込んでいます。一点一点のポートレートは老若男女問わず、同一人物とは思えないほど完成度が高く、模倣する他者の内面までをとらえているようです。

注目作家 2 独自の記号と数字で世界の成り立ちを描く ジョージ・ワイドナー

アメリカのジョージ・ワイドナーの創作では、紙の上にインクで架空の都市や未来の日付のカレンダー、図表、記号、数字などが驚くほどの緻密さで描かれています。数字はまるで魔術的な儀式のようにマス目に描き込まれており、ワイドナーはこのシステムによって世界を結びつけようとしているといいます。彼の作品はアール・ブリュットコレクション(スイス、ローザンヌ)やアメリカン・フォーク・アート・ミュージアム(アメリカ、ニューヨーク)にも収蔵され、アウトサイダー・アートの分野で作家としての地位を確立している一人と言えるでしょう。関連イベントとして本作家のドキュメンタリー映画も上映予定です。



ジョージ・ワイドナー 《Megalopolis》 2000-2010年
ミクストメディア、紙ナプキン 60.5×98cm
©collection abcd/Bruno Decharme

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局 (株式会社スキュー内)
〒107-0062 担当: 大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
Mail: 3331@skewinc.co.jp

アーツ千代田 3331 統括ディレクター/本展キュレーター

中村 政人

アーツ千代田 3331 統括ディレクター

1963 年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。アーツ千代田 3331 統括ディレクター。東京ビエンナーレ 2020/2021 総合ディレクター。アートを介してコミュニティと産業を繋げる社会派アーティスト。

第 49 回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。1997 年よりアート活動集団「コマンド N」を主宰。平成 22 年度芸術選奨受賞。2018 年日本建築学会文化賞受賞。

嘉納 礼奈

本展キュレーター

芸術人類学研究、EHES(フランス国立社会科学高等研究院)、フランス社会人類学研究所在籍。兵庫県生まれ。パリ第 4 大学美術史学部修士課程修了。国立ルーブル学院博物館学課程修了。国内外でアートとその周縁、人間の創作物のカテゴライズなど芸術人類学の研究、展示企画、シンポジウムなどに携わる。アーツ千代田 3331 では、ポコラート全国公募のコーディネーターを務めた。

選考委員紹介

O JUN

画家

小池 一子

クリエイティブ・ディレクター/佐賀町アーカイブ主宰

榎木 野衣

美術批評家

バルバラ・シャファージョヴァー

abcd 代表

畠山 直哉

写真家/東京藝術大学大学院映像研究科教授

ルシエンヌ・ペリー

キュレーター/スイス連邦工科大学ローザンヌ校講師

保坂 健二郎

滋賀県立近代美術館 館長

[敬称略、50音順]

*主に作家選考委員としてご参加いただきました。

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局(株式会社スキュー内)
〒107-0062 担当:大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
Mail: 3331@skewinc.co.jp

展覧会に寄せて

ここに集められた作品は、どれも面白く変で不思議で強くて怖くもあり、見ているこちらの躰や目になぜか簡単に馴染まないものばかり。描かれているモノ、作られているモノはどれも僕らの身の周りのモノやコトだらけなのに。もう一つ、見えそうで見えないものがある。作者がこれらの作品をどんな格好でどんな風に描いたり作ったりした(している)のか?彼らが制作する時の姿だ。僕は、それを想像してしまう。

○ JUN

画家

「なんだろう、このつき動かす力は」。つくる人自身が口に出すことはないとしても、つくりながら感じているに違いない衝動。それがあるのが生命の自然であり、つくられた結果がアートと呼ばれるに至るものであると私は思います。ポコラートと呼ばれて10年になるこの展覧会のシリーズは毎回見る人がハッとするような作品を日本から発信し続けて、今年は世界の国々からの参加が賑やかです。見る人も、つき動かされるでしょう、創作の衝動の力に。

小池 一子

クリエイティブ・ディレクター/佐賀町アーカイブ主宰

ポコラートは、これまでもすべてのアートを等価に扱い、まるで宇宙のように拡張してきた。宇宙、そう世界ではなく宇宙なのだ。世界には歴史があるけれども、宇宙にそのようなものはない。その意味で、ポコラートは美術史に拘束されない。秘密は、人類=文明全体ではなく、ひとりひとりの内なるヒト宇宙の中にある。時は過去から未来へと向かって流れるのではなく、外と内でコレスポンダンス(万物照応-ポードレール)するのだ。今回、その可能性が最大限にまで拡大されている。

榎木 野衣

美術批評家

私たちの世界とは「にんげんだもの」と言われて頷く人々だけが暮らす世界だ。その外部の住人=他者は、この「にんげん」には含まれていない。他者への無関心、忌避、偏見、差別、排除。「にんげん」によって毎日フツーにおこなわれているこのような行動は、自らの世界を安定させるために必要だった。だが実は、そんな世界は「世界」などではなく、ただの「世間」でしかない。真の世界には、他者がうじゃうじゃと生きている。「にんげん」にすら興味のなさそうな人間たちが、わき目も振らずに、自身の生を全うしようとしている。彼らは「にんげんだもの」と頷き合っている私たちが、いかに言語や歴史や技術にがんじがらめにされた、脆弱な生き物であるのかを、教えてくれている。

畠山 直哉

写真家/東京藝術大学大学院映像研究科教授

アーティスト/作家が発明したアール・ブリュットという概念も、編集者が研究書に与えたアウトサイダー・アートという言葉も、今を生きる私たちが必要としているアートの前では、その有効性を失っている。ポコラートとは、そんなアートを集めるために編み出された新しい概念、いや、新しい場なのである。アジアの一都市に生まれ育てられたポコラートという場に、アートの未来を考える人によって選ばれた作品が集まるこの機会を、見逃さないでほしい。

保坂 健二郎

滋賀県立近代美術館 館長

【報道関係者問い合わせ先】

ポコラート世界展PR事務局 (株式会社スキュー内)
〒107-0062 担当: 大迫、中田
東京都港区南青山6丁目12-10 ユニティ501号室
Tel: 03-6450-5457 Fax: 03-5539-4255
Mail: 3331@skewinc.co.jp